

1 . 調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成 2 1 年 1 0 月 2 0 日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 7 1 3 0 0 3 4 6
法人名	医療法人 桐葉会
事業所名	グループホームコスモスガーデン
所在地	貝塚市森 8 5 3 番地 (電 話) 0 7 2 - 4 4 7 - 2 7 5 5

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺 1 丁目 1 番 5 4 号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 2 1 年 9 月 2 5 日

【情報提供票より】(平成 2 1 年 8 月 2 0 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 2 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	1 8 人
職員数	1 9 人	常勤	1 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 1 8 . 5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	1 3 5 , 0 0 0 円	その他の経費 (月額)	円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (2 0 0 , 0 0 0 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	1 0 0 円	昼食 5 5 0 円
	夕食	5 5 0 円	おやつ 0 円
	または 1 日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 2 1 年 8 月 2 0 日現在)

利用者人数	1 5 名	男性	3 名	女性	1 2 名
要介護 1	1 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 8 4 歳	最低 7 4 歳	最高	9 4 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人桐葉会 木島病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

精神科の専門病棟をもつ医療法人が「地域への恩返し」の趣旨で設立されたグループホームです。名前のコスモスは、貝塚市の市花です。長年認知症ケア経験を持つ看護師のホーム長が、実践から学んだ理念を現場に浸透させ、利用者一人ひとりが心地よくその人らしく暮らせ、笑顔がたくさん見られるための支援がなされています。職員全員が常勤雇用で離職率が低いことも、利用者の安心できる暮らしの実現に寄与しています。利用者が重度になっても、できる限りホームで生活してもらうことや、家族・地域からの認知症ケアに関する相談対応に、職員のスキルの高さが活かされています。利用者の表情と職員の会話、ホーム内の雰囲気、に日頃のケアの良さが伺えます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目：外部 4)
	前回の改善課題はありませんでした。外部評価を受審することで、さらなる質の向上に活かしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部 4)
	外部評価の意義を理解した上で、全職員で自己評価に取り組みました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部 4, 5, 6)
	運営推進会議の規程を策定し、2 ヶ月に 1 回開催しています。利用者・家族、市職員、民生委員の参加のもと、運営状況や利用者の暮らし、行事、研修報告なども報告し、意見交換を行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部 7, 8)
	面会に見えたときには、積極的に家族の要望や意見を聞くようにしています。ホーム便りを発行し家族に送付して、より利用者の暮らしぶりを理解してもらっています。意見箱の設置や家族会の開催等、家族の希望や願い・不満を表せる機会作りに工夫しています。家族会で出た意見として、「職員の顔と名前が分かりにくい」という声に、職員の写真を掲示して応えた事例があります。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部 3)
	地域の公民館での行事への参加や日常的な周辺の散歩の機会を通して、地域との交流に努めています。小学校からの体験学習や実習生の受け入れにも積極的です。地域や家族からの相談を受けること、重度になってもぎりぎりまでホームで生活してもらうことも、「地域への恩返し」だと考えて実践しています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今までの生活リズムを守ることが出来る環境を提供する」「まだ人の為に役立っていると思うことが出来る環境を提供する」「わがままを言えることが出来る環境を提供する」「その人らしく生きることが出来る環境を提供する」を理念として、利用者一人ひとりが自分らしく、心地よく暮らせる生活を支援しています。ホームの理念の基礎には、「地域への恩返し」という法人の理念があります。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念は調度品のようにフロアに貼って、職員の共有やケアの振り返りに活かされています。職員は、理念を消化し日々のケアにあたっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	公民館の行事への参加や日常的な周辺の散歩を通して、地域との交流に努めています。小学生の体験学習や実習生の受け入れも積極的です。地域の方や家族からの相談を受けること、重度になってもぎりぎりまでホームで生活してもらうことも「地域への恩返し」だとの考えで地域に貢献しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、外部評価の意義を共有しています。前回の外部評価結果で改善事項はありませんでしたが、受審によって、より質の向上へと取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者・家族・民生委員・市職員の方たちの参加を得て、話し合いが行われています。運営状況や利用者の生活、行事、研修への取り組み等報告し、意見交換を行っています。運営推進会議の規程も作成されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取り合い、連携を図っています。市が主催する事業者連絡会にも出席しています。困難事例の相談には、市の担当者と連絡を取り合いながら、利用者ニーズに応えるようにしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、生活の様子を知らせています。毎日の生活記録も要望があれば見てもらいます。定期的に「ガーデンの四季」を発行し、家族に送って、より利用者の暮らしぶりを理解してもらっています。金銭管理に関しては、定期的に残高・収支の報告を行い、承認をもらっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、家族の要望や意見を聞いています。意見箱の場所も職員から見えにくい場所に置くなど配慮されています。面会に見えた時には積極的に家族の要望や意見を聞くようにしています。家族会を開催しており、「職員の顔と名前が分かりにくい」という声に、職員の顔写真を貼りだし応えた事例があります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員常勤雇用で、人数も手厚く配置しています。異動は最小限抑えるように努め、離職も少ない状況です。新人職員の採用時には、研修やトレーニングで利用者にダメージを与えないよう教育しています。全員常勤職員のため、周囲の職員でカバーすることが自然にできています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が資格を取得しやすいように、受験対策講座を開催し支援しています。外部研修への参加やホーム内研修も積極的に行われています。研修参加者は報告書を作成し、他の職員も閲覧できるようになっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、相互の交流・情報の早期取得に努めています。新しく開所する事業所からの見学や実習も受け入れています。市内の同業者との交流も行われていますが、今後もより積極的な交流を実施され、市内のグループホーム全体の質の向上の牽引となることが期待されます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	短期利用型共同生活介護を利用して徐々に馴染み安心し納得して利用してもらえるシステムがあり、利用者・家族と共に安心してもらっています。利用前には自宅を訪問し、生活状況の把握に努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で、「利用者から学ぶ」ことを大切にし、利用者の知恵を尊重しています。食事作り・生け花・習字・俳画等、利用者が力を発揮される場面で、職員は利用者から教えてもらうことが多い状況です。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の関わりの中で気付いたことを大切にし、情報の共有に努めています。毎月のカンファレンスで、利用者状況を確認しています。アセスメントや介護計画の様式も、一人ひとりの思いや希望を把握できるように工夫されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	独自のアセスメント様式を作成し、本人や家族の意向や願いを反映した介護計画になっています。策定された介護計画は、援助項目ごとに実施表を作り、計画に沿った支援を実施しています。また、家族の同意も得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日がモニタリングだとの意識で、日々の変化への気づきを大切にしています。1か月に1回のカンファレンスでは、職員全員で話し合い、介護計画の評価を実施しています。利用者の状態の変化に対しては、主治医や家族と話し合いを行い、介護計画にも反映しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用型共同生活介護を利用しての体験入居や、認知症専門医と連携を図ることで、利用者・家族に安心してもらっています。家族からの相談も頻繁にあり、認知症ケアのプロとしての対応は、家族に安心してもらっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できる体制になっています。家族が受診に行けない場合は、職員が付き添っています。夜間の対応についても、医療法人が本部であり、緊急時の対応の体制は整っています。また、家族からも安心の声が寄せられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期には、医師や看護師、職員・家族で話し合い、方針を決定し共有しています。重度の利用者にも、よりよく暮らしてもらうように、また、家族の不安が和らぐように、チームで支援しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の介護の場面でも、利用者を尊重した対応を心がけています。勉強会やミーティングの場でも、確認しあっています。個人情報の取り扱いについても規程があり、新たに入職した職員及び介護福祉士等の養成施設学校から実習生を受け入れ、誓約書を作成させています。また、この規程において、利用者の個人情報を実習学生が利用する場合の規定を定めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを職員の勤務時間の都合に合わせないよう、ホーム長は「利用者の24時間に職員の勤務時間である8時間を合わせなさい」と職員に説いています。また、気ままはいけませんが、わがままの言える雰囲気が必要であるという考えで取り組んでいます。その考えは現場に浸透し、散歩や買い物など、利用者一人ひとりの希望を実現できるように工夫しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片づけは、利用者の力や希望に合わせて全員が参加できるように支援しています。材料は全ユニット一緒ですが、利用者の知恵の出し方ででき上がりに個性が出ていて、それが主体性の尊重につながっています。食事の量も一人ひとりに合わせています。職員も一緒に食事をして、楽しい時間を共有しています。食事が済んでも和気あいあいとアットホームな雰囲気、会話が弾んでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週4回の入浴になっていますが、本人の希望があれば、毎日入浴できます。生活習慣や希望を尊重しています。シャンプーも本人が今まで使っていたシャンプーで馴染みを大切にしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、生け花、書道、俳画、着付け、洗濯物たたみ等、利用者が生活に意欲をもって暮らせる働きかけと支援をしています。利用者の希望を聞き取り、職員間で共有しながら支援しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	認知症状や身体機能の低下で重度化している利用者が多くなり、外出支援は難しくなっています。しかし、日常的な周辺の散歩、地域や小学校での行事参加、法人施設内での散髪、喫茶店に行く等、外出の機会を設けています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来、エレベーターは自由に使え、玄関にも施錠はしていません。身体拘束もありません。外出願望の強い利用者に対しても、制止することなく対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対応マニュアルを作成し、消防署による避難訓練も2回実施しました。非常口はいつでも開けられる状態になっています。非常用食品や備品も準備しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し、職員間で把握できています。栄養バランスについては、専門家によるカロリー計算をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂以外にもくつろげるコーナーが作られており、居心地のよい空間作りへの工夫がされています。食堂横には、畳のコーナーがあり、冬には掘りこたつとして団らんの場所になります。季節の花も利用者によって生けられ、季節感を楽しめる雰囲気です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは、ベッド・机・椅子を用意しています。タンスや和机、飾り棚等の馴染みの家具・家族の写真・手芸品等、その人らしい居室づくりへの工夫がされています。俳画や書道の得意な利用者は、居室で気兼ねなく安心して趣味を楽しめる環境になっています。利用者が、自身の居室を誇らしげに案内してくれた表情にホームの個別支援が伺えます。		